

地濃 会長 「使命と誇りを広くPR」

コンクリート診断士会セミナー

住民向け講習など

新潟県コンクリート診断士会（会長・地濃茂雄 新潟工科大学名誉教授）はこのほど、17年度技術セミナーを新潟市立中央図書館で開き、コンクリート構造物の劣化に対する事前および事後の対応など意見を交わした。

この日は、会員約40人が参加。診断士会をさらに発展させるためには今後、会員の思考力や判断力、表現力の向上が必要となることから、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）ができるよう2部構成で行われた。



意見を交わす参加者と地濃会長

シンポジウムでは、「目視に基づく鉄筋コンクリート構造物の劣化通報の普及」をテーマに討論。地濃会長が

新幹線の台車破損事故を事例に挙げ、小さい兆候の軽視が重大事故につながる指摘し、多重に連携した防壁を張る防止策「スイスチーズモデル」を提唱。コンクリートのはく落など第三者への被害を未然に防ぐために、住民が監視員となり、多くの視点からの通報が不可欠と提案した。その普及に向けて参加者からは、各地域での率先した診断士の行動や講習会による住民への周知、モニター制度活用などの意見のほか、苦情への対応や

受け手側の資質などの課題も挙げられた。地濃会長は「診断士自らが何事にも好奇心を持ち、見る目、聞く耳を育まなければ」と述べ、「診断士の使命と誇りを自覚し、広く広報することで、住民の意識向上とともに、建設技術者への関心が高まり、後継者確保へとつながる」と語った。

また、本田明副会長（水倉組常務取締役）による17年に行われた現場見学会の劣化事例報告では、コンクリート構造物におけるアルカリ骨材反応の原因や対策などに関して、参加者が自身の経験を踏まえた見解を出し合った。